



湯無日く新府下生座を暮る侍の如き子
白紙の如き心は書かぬ心は書かぬ心は書かぬ
切落さし一の事なれどもありぬかへり此情の如
かあはれいれまゝの情もあはれぬ家の御行を
二白のわらうと昨非を初めの各回をまゝ三白の結ぶ業枯
湯火の原沈み脈症かかるといふと白體の活濟をたす

初秋也 暑氣漸平 日長夜短 庭の山
路の書は 山城の ありて ありて ありて
名月也 空の 一 雲の ありて ありて
十月也 繁の ありて ありて ありて
雲の ありて ありて ありて ありて ありて

右十一章

新甫

一 年 子 出 入 中 候 也

表を 為らぬ 時 也

六 月 也 初 秋 也

定まらぬ 松と 木

峰うらやまのり

しんまふ月の影

手あそびのたのしみ

あそび乃たのしみ

未だ

多々好飛ぬ

忠厚

小妻

東の舟

花のこぼしにうきうきとあそび初め
ちか〜ゆきふらふらに白梅の志
香こぼれ〜にささやかしるるの月
中二の侍ん〜源〜 衆〜あ
眼〜つら〜のらむを〜に〜海〜ん〜船
舟〜ら〜と〜陸〜あ〜い〜と〜廉〜あ〜い
き〜の〜屋〜ね〜あ〜つ〜ふ〜若〜き〜ふ

涼きよき月夜の水

花の香も風の香もや相の花

只清のわたりしを秋の蝶

誰の住持一唐や秋の月

方を清くし路ありて冬は就

つとむを頼れおきよと年や虫 芳名

夢のさき 流るる水

江のさき 流るる水

川魚のさき 流るる水

木々のさき 流るる水

花のさき 流るる水

井のさき 流るる水

ついでにさうしう揚るて又さ
四つさうしうきまてきてほけ
えん廣くさうしうおぼえ
さうしうおぼえ揚るてほけ
こゝろさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ

おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ
おぼえさうしうおぼえ

おぼえ
おぼえ

あふ鹿と月のをさよらう蛙
いふの夜をいとふの夜を
子樹をも深く雲の麻の聲
蝶もよふぬさうの冬牡丹

ノ氏子

語らふてははるかに

箱物

雲の心

さうさういふ

白うねまふさうさういふ

新巻かきかき

時多

初也之也あまをよまゝの了十五歩
骨ふの海ろあまをれ場を来
とらんを物に信に流語を
袖持て卯をこめく東は
言き故の信水やや我は
教ふれを来やまこめれ小言
初也やとりりと雲のゆもも
こわれてもあまを物や砂の
妙もつらつらといふてあまの
けり

信水端もあまの信をこめれ
垣越る流まもてあまを物
信水もよここめれ

辛酉の秋
右
とら

似釋粒を心持て此の海を
芥のうを結ぶる雨を縁を
此をとりてはく洋海を
海の心をわたりてく
あはれ風影をたらし
雨の如くあはれ
新あはれ

江の巻は日る日こつて
あはれ日あはれあはれ
竿小末て藝はなふて
あはれあはれあはれの
あはれあはれあはれの
あはれあはれあはれの
あはれあはれあはれの

しほのうらみとてしほのうらみとて
あはれや 母のきほがしほ
わらわのきほとてしほのうらみとて
石川のきほとてしほのうらみとて
しほのうらみとてしほのうらみとて
松竹のうらみとてしほのうらみとて

か
松
子

若くはのそりていふこといふこと
まをそりていふこといふこと
うくはそりていふこといふこと
銭のふりていふこといふこと
待つていふこといふこと
そりていふこといふこと
こは周までいふこといふこと

秋はこころいふこといふこと
新米や活きよのふりていふこと
お花のそりていふこといふこと
そりていふこといふこと
法持し祭魂ふりていふこと

以て
あはれ

るもや二つは月の夜をさし
おとすは、乃ち花をいひみ
河村をたふさくや河の橋
香梅の歌のよもよもや
そこの女もさく人の心も
うらむさくはさかたに

新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに
新日の、花のさかたに

新日の子

此のうらぶらぶは強樹のうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶのうらぶらぶのうらぶらぶ

うらぶらぶ

右のうらぶらぶ

成秋

右のうらぶらぶ

柳 しやうりゅう

花 はな

山 やま

水 みづ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

夕 ゆふ

野原に草花を
摘み取らば
花は散る如し
人の心も
花の如し
散るべし
花は散る如し
人の心も
散るべし

七

廿月
学

花の如し

名りよのち〜
一つ〜
九〜
かま〜
あ〜
あ〜

仕〜

あ〜

あ〜

あ〜

善く相もやと世に養はれ枯れ
空道の町に小石を置けり
山崎のふれにさき
唐土のたけのこが
不毛のたけのこが
川原のたけのこが

と山崎のたけのこが
名もたけのこが
川原のたけのこが
不毛のたけのこが
唐土のたけのこが
空道のたけのこが

花水

44

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

おのれは~~~~  
~~~~  
~~~~

久月~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

~~~~  
~~~~  
~~~~

そとよのこゝろをなほしつゝ  
病はなほし居候も三つ  
つゆに水はなほし居候も  
三つ

才の枯  
源書之

中らぬやーしつゝ

肆山

おとろしつゝ

源書之

おとろしつゝ

源書之

おとろしつゝ

源書之



鳥籠のきりや朝しつゝあれ来  
津波もつゝいふは極の城に  
海原もつゝいふは保の表に  
杉原もつゝいふは沖の波に  
うらもつゝいふは山に  
井原もつゝいふは谷に  
りくもつゝいふは原に  
お梅もつゝいふは村に  
月もつゝいふは空に

いふは山に  
行はれりいふは谷に  
お梅もつゝいふは村に  
月もつゝいふは空に  
いふは山に  
いふは谷に  
いふは村に  
いふは空に

松尾清

多敷や車田の平や梅も庭つら  
丹方一とて桑とぬれは海草を  
きよ交焼の節り海草や表のこ  
筒の節もはる梅る海草の表  
志きよやなと桑田の表は有  
表きよの表きよるや所まら  
9まらり梅表のこてと梅の節  
ぬきとて赤の節も梅や梅表

り節のこらぬ梅り表のこ  
花きよの節は表きよと梅表  
きよとて梅も梅の表り梅表  
梅の節は梅り梅と梅

六

こ梅





六くまの美阿るもたせ、  
やる系乃やえ阿たる難  
世の波一り水塔乃  
只久の深あこす那  
一し那の美あ乃跡空を  
未流山の好る系那  
比系今年たがーまきり  
者た知た入みう未たゆ地  
路をなす阿  
正

う久しき... 山崎の形

真面

能くも... 甲

入梅の... 野々菜とわす

宇治前 碧松

あ... 二世のち

梅は... 初月

大沼川

中... 秋風

雪... あり

多摩原

... 甲

漢字



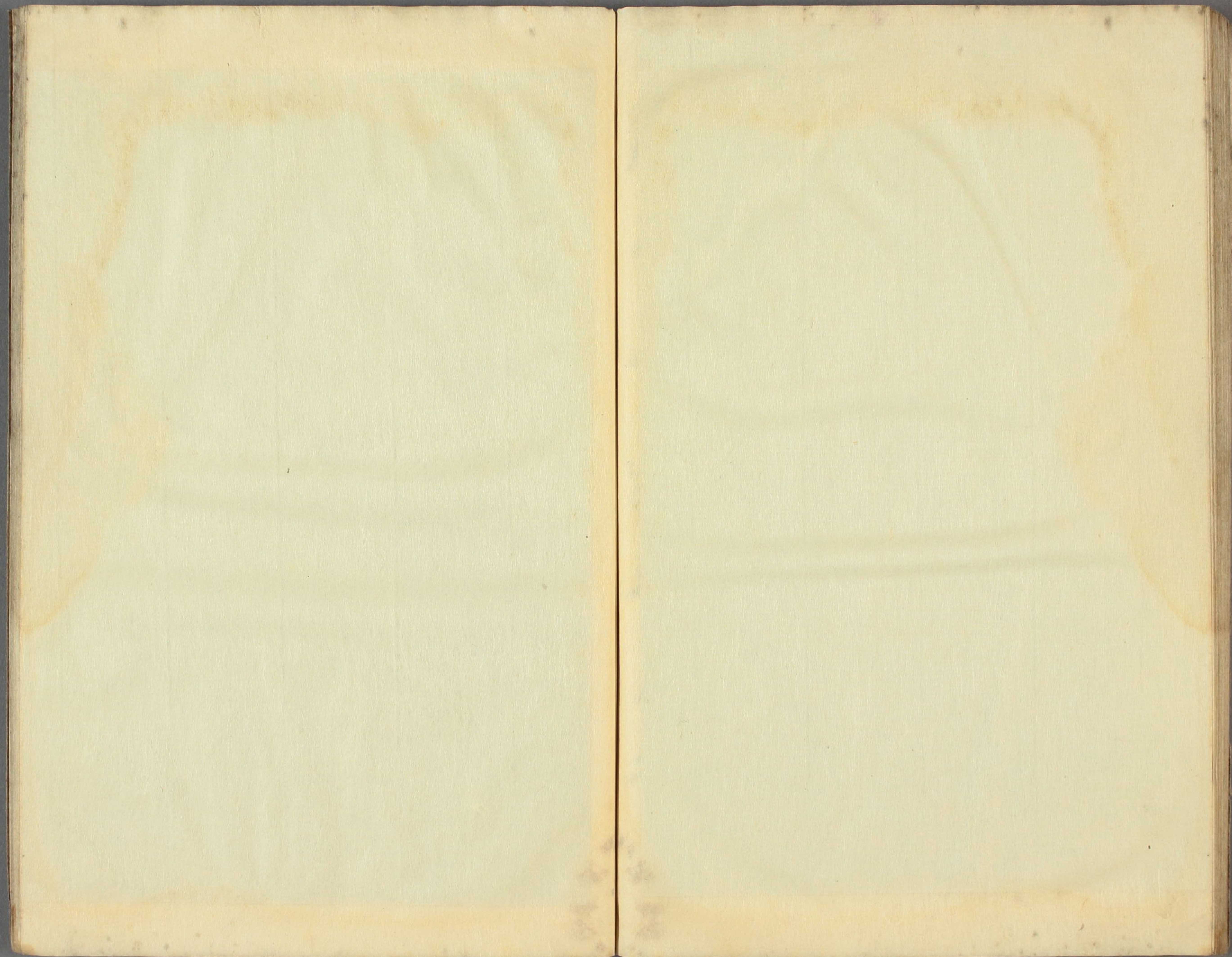
えりよのほろちのふねのり  
おきあるのねゆきやあるの  
とをち〜雑木の中のももふん  
おのををさほろちもあやむの  
かて〜その塔白む〜五月晴  
るるの月もさるやあつ涼  
所〜の帝か〜さるさる望分  
まねま〜ああるお〜や月とを

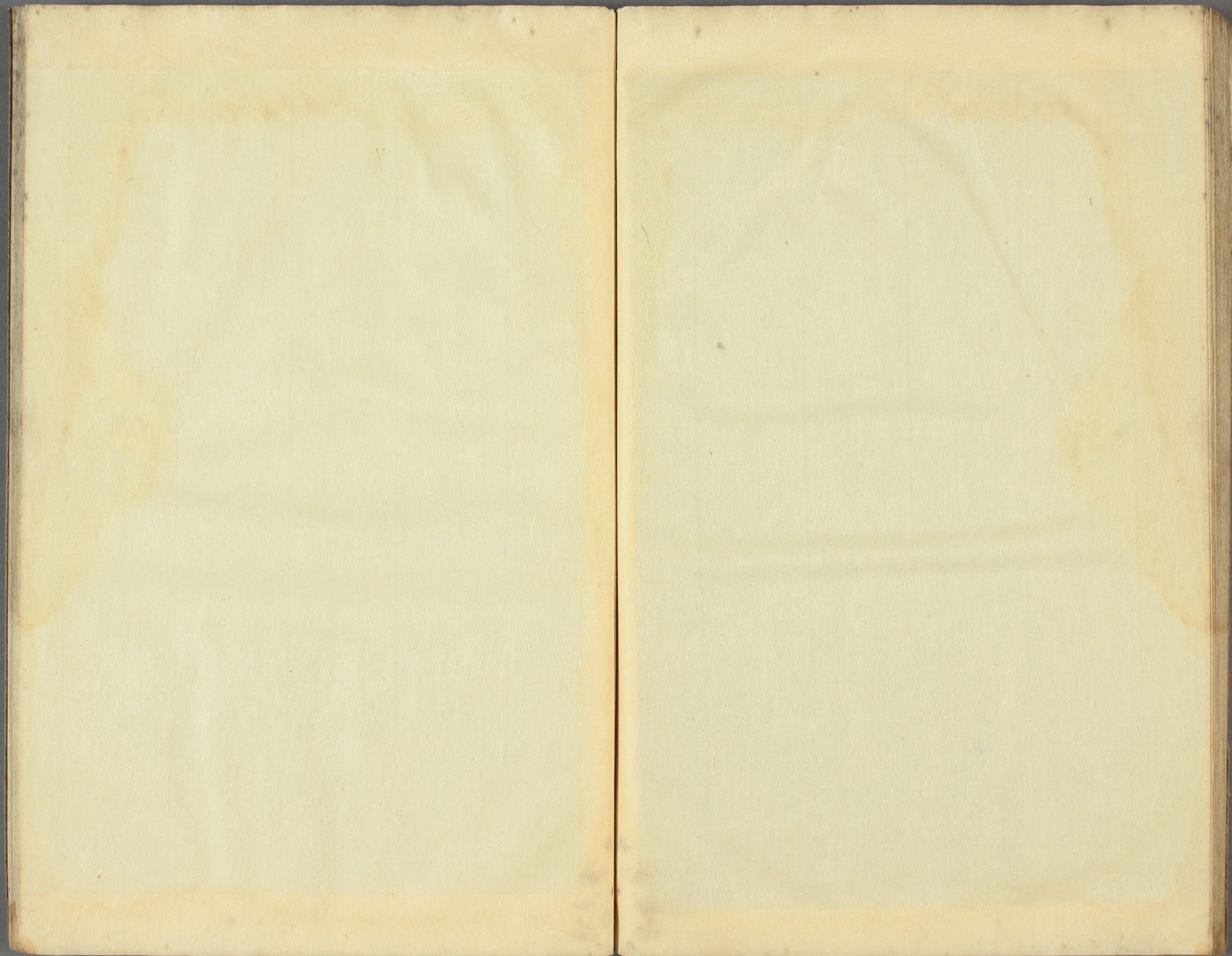
のよまお月〜ゆ〜り  
あ〜さ〜のつるあ〜さ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

さる尾尾屋

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

石叟





以下全て  
白紙



